東京大学アジア研究図書館ニューズレター 第20号 ISSN 2758-0091
2025年7月7日

アジア研究圖書館

U-PARLイベント開催報告（令和6年度第4四半期） 1
（一色 大悟・太田 絵里奈・菅崎 千秋）

令和7年度東京大学総合図書館U-PARL展示「絵と詩 少数民族 ショルのこころ」 5
展示・講演会報告（Akmatalieva Jakshylyk）

アジア研究図書館叢書出版報告（河崎 豊） 13

蔵書紹介 14
カッタエフ（Komilxon Kattaev）氏からの寄贈資料について（河原 弥生）

アジア研究図書館利用案内
次号の予定
編集後記

編集・発行：東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門
（RASARL）
〒113-0033
東京都文京区本郷7−3−1
東京大学附属図書館 アジア研究図書館担当
asialib@lib.u-tokyo.ac.jp
https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia

U-PARL イベント開催報告
（令和 6 年度第 4 四半期）

一色大悟・太田絵里奈・菅崎千秋
（附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門［U-PARL］）

第三期 U-PARL の令和 6 年度第 4 四半期

令和 6 年 4 月に開始した第三期 U-PARL では、文理融合・東西融合の研究、デジタル資源の作成、アジア研究図書館運営支援、社会還元の 4 つの柱からなる事業を行うことで、アジア研究図書館の発展、機能強化のために活動している。これまでに本ニューズレター第 16、18 号において、第三期事業の理念と概観、令和 6 年度第 1～3 四半期の活動の概要について報告されている。そのためここでは、第 4 四半期の活動を報告することに焦点を合わせたい。

この第 4 四半期においては、第三期 U-PARL のデジタル資源作成方針を世に問うたシンポジウム「むすび、ひらくアジア 6『ボトルネックを乗り越える新時代のアーカイブ』」を開催する一方で、本部門が最初期から行っている企画「アジアンライブラリーカフェ」を継承し、No.008「こんなにスゴイ！熱帯雨林地域@マレーシアの環境微生物」を開催した。さらに本年度テーマ「Society5.0 における心のゆたかさ」のもと行われた文理融合・東西融合研究の成果を取りまとめた「U-PARL 文理融合・東西融合フォーラム（むすび、ひらくアジア 7）SHIBUYA QWS アカデミアスペシャル東京大学『“明日を心ゆたかに過ごすには？”アジアの視点からみる Society5.0』」を開催し、一年間の研究活動を総括した。それらのイベントのそれぞれについて、こののち解説する。これらのイベントに加え、令和 7 年度テーマ「Society5.0 における人のつながり」への布石として、大型研究プロジェクト「イスラーム信頼学」国際会議の開催にも協力した。

なお本報告のこれ以後の部分は、U-PARL におけるデジタル学術資源作成のための試行として、執筆にあたり生成 AI を試験的に使用した。具体的には、「U-PARL 令和 6 年度研究・活動実績報告書」本文部分をソースとし、Google 社の生成 AI である NotebookLM（無償版、2025）を用い、

> このソースをもとに、「むすび、ひらく 6『ボトルネックを乗り越える新時代のアーカイブ』」シンポジウム、アジアンライブラリーカフェ No.008、「第 1 回文理融合・東西融合フォーラム」という 3 つのイベントについて、合計 4000 字程度でレポートにまとめてください。文体は「ですます」調ではなく、「である」調とし、注釈をつけないようにしてください。

というプロンプトのもとで生成した文章を、一色・太田・菅崎が校閲し、報告書の趣旨と齟齬する部分を修正したものである。加えて、見出しを付し、本ニューズレターの体裁に整形した。（以上、執筆担当：一色）

U-PARL シンポジウム：むすび、ひらくアジア 6「ボトルネックを乗り越える新時代のアーカイブ」

このシンポジウムは、デジタル化と AI 技術の進展が社会に大きな変革をもたらす中

で、U-PARL が目指す「みんなで育てるアーカイブ」という協働型のアーカイブ構築の理念を世に問い、その可能性を模索することを目的として開催された。従来の「提供者」と「利用者」という固定的な枠組みを超え、多様なステークホルダーとの対話を通じて、柔軟なデジタルアーカイブを構築し、資料に新たな価値を見出していくことを目指している。このシンポジウムは、単なる成果公開ではなく、情報に対するフィードバックを得てアーカイブに反映させる「みんなで育てる」活動の一環と位置づけられている。

イベントは令和 7 年 1 月 26 日（日）に東京大学情報学環･福武ホール 福武ラーニングシアターで開催された。応募人数は 59 名（学生・院生 15 名、教員・研究者 16 名、その他 28 名）で、最終的な参加人数は招待者を含め 45 名であった。主催は U-PARL で、対象は特に定めず、広く一般から参加者を募った。プログラムは以下の通り進行した。

開会挨拶は U-PARL 部門長の蓑輪顕量氏によって行われた。

続く基調講演 1 では、U-PARL 兼務教員である大向一輝氏が「デジタルアーカイブと AI :「提供者」と「利用者」の関係を再考するために」と題して講演し、デジタルアーカイブにおける AI 技術の役割と、提供者と利用者の関係性の再定義について考察を深めた。人工知能技術を活用したメタデータの管理手法に関する研究も行われた。

「育てるアーカイブ」への転換と題した第二部のレポート 1 では、太田絵里奈特任助教と阿達藍留氏（東京大学大学院）が「アラビア語写本アーカイブの再構築：研究者コミュニティによる協働型データベースの展望」について報告した。これは、U-PARL が令和 6 年度より着手した、東京大学東洋文化研究所所蔵アラビア文字写本「ダイバー・コレクション」のデータベース再構築事業に関するもので、研究者・学生・エンジニア・URA が「チーム・ダイバー」を結成し、相互の知見を活かした協働型のデータベース構築を目指すものである。

レポート 2 では、澁谷秋特任研究員が「写真資料のアーカイブ化とその活用：田中武雄氏旧蔵写真等資料」について報告した。この資料は、朝鮮総督府官僚・貴族院議員を務めた田中武雄氏旧蔵の貴重な写真群であるが、肖像権の問題から公開が困難であった。シンポジウムでは、デジタル・アーカイブ学会が示す「肖像権ガイドライン」に従い、公開への道筋が議論された。

展示紹介として、アクマタリエワ・ジャクシルク特任研究員が展示企画「絵と詩：少数民族ショルのこころ」について紹介した。これは、中央ユーラシアの消滅危機言語アーカイビングの試みとして、南シベリアで話されるテュルク系少数言語の一つであるショル語の詩と朗読を公開するプロジェクトである。また、太田絵里奈特任助教が「ボードゲームの世界へようこそ 遊びに映された時代と社会」を紹介した。これは、デジタルアーカイブの成果還元を目的としたシビルダイアログ企画であり、市民社会との共創を模索する試みである。

第三部における基調講演 2 では、人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館特任准教授の大井将生氏が「DA の繋ぎ目ボトルネック解消法:みんなで創る構築と活用の環」について講演し、デジタルアーカイブの課題解決と協働の重要性を強調した。大井氏は、S×UKILAM（スキラム）連携という、デジタルアーカイブ活用による、探究型授業を念頭に置いた教材作成ワークショップを運営している。

講演後には、渡邉英徳 U-PARL 兼務教員がモデレーターを務めるディスカッションが設けられた。渡邉氏は情報デザイン・デジタルアーカイブを専門とし、戦災・災害

のデジタルアーカイブ構築・利活用とコミュニティ形成を主たる研究領域としている。

最後に、副部門長の一色大悟氏による閉会挨拶と、ホワイエでの展示見学およびネットワーキングを含むアフターセッションが行われた。一色氏は仏教学を専門とし、仏教学の近代化や仏教応用倫理、学術成果流通および融合研究創出に関する実践的知見を有している。

このシンポジウムは､｢みんなで育てるアーカイブ」という U-PARL の第三期のデジタル化事業を特徴づける理念を明確に打ち出し、その実践例を示すことで、今後のデジタルアーカイブのあり方について学内外のステークホルダーとの対話を深める重要な機会となった。

アジアンライブラリーカフェ No.008「こんなにスゴイ！熱帯雨林地域@マレーシアの環境微生物」

アジアンライブラリーカフェは､U-PARL が社会還元・広報活動の一環として定期的に開催しているイベントである｡本企画は、一般参加者を含む幅広い層にアジア研究の魅力を伝えることを目的としており、専門的なテーマを分かりやすく紹介する場となっている。

第 8 回となるこのカフェは、令和 7 年 2 月 28 日（金）にアジア研究図書館レクチャールームで、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催された。オンラインによる一般からの参加に加え、本学学生・教職員は対面での参加が可能であった。対面では 7 名（大学院生 2 名、教職員 5 名）が、オンラインでは 15 名が参加した｡本イベントの企画者である田中あき特任研究員は、ベトナム語文学を専門とし、仏領期のベトナム語文学、ベトナム戦争期の戦争文学、ベトナム戦争終結後の難民文学を主たる研究領域としている。

イベントのタイトルが示す通り、マレーシアの熱帯雨林地域における環境微生物に焦点が当てられた。志水正敏氏の司会のもと原啓文特任教授（農学生命科学研究科）が登壇し、本学のアジア研究の知見を、一般社会に分かりやすく還元した。

第 1 回文理融合・東西融合フォーラム

このフォーラムは、U-PARL が第三期事業の柱の一つとして掲げる「文理融合・東西融合の研究―Society5.0 における人のより善き生き方を軸に」の成果発表の場として位置づけられている｡Society5.0 という高度にデジタル化された社会において、人間がいかに心ゆたかに生きるべきかという問いに対し、アジアとヨーロッパ、そして文系と理系の学問領域を融合させた多角的な視点からアプローチすることを試みた。U-PARL は東京大学附属図書館が「智と人」の邂逅するハブとなることを活かし、この問いに取り組んでいる。令和 6 年度のテーマは｢Society5.0 における心のゆたかさ｣に定められ、デジタル化が進展した時代における精神的幸福を扱うものとされた。

イベントは令和 7 年 3 月 16 日（日）に SHIBUYA QWS スクランブルホールで開催された。定員 100 名に対し、応募人数は 89 名､最終的な参加人数は招待者を含め 64 名であった。このフォーラムは、東京大学の研究者・学生を中心として一般参加者を巻き込み、大学で生まれた議論を社会に還元する仕組みとしても機能した。

プログラムは以下の三部構成で行われ、総合司会は U-PARL 兼務教員の松本武祝氏、開会挨拶は東京大学執行役の三島龍氏が務めた。松本氏は農業史を専門とし、主に植民地朝鮮における水利組合の設立と運営に関する事例分析を行っている。

「第一部 : Society5.0 における学び」においては、ガリーナ・ヴォロビヨワ氏（前ビ

シケク国立大学東洋国際関係学部日本語日本文学学科/キルギス日本語教師会会長）による講演「数学から日本語へ！文理と東西の越境と教育」が行われ、文理融合・東西融合の観点からの教育実践が紹介された。続いて U-PARL の太田絵里奈特任助教は「正しい＜面白い：問いを生み出すデジタルアーカイブの教育活用」と題して、デジタルアーカイブを用いた新しい学びの可能性を提示した。小林真也氏（東京外国語大学大学院）は「ゲーミフィケーションによる学びの未来」について話題提供を行い、学習におけるゲーム要素の活用について語った。これらの発表を受け、梶谷真司氏（東京大学大学院総合文化研究科教授）がディスカッサントとなり、活発なディスカッションが行われた。この議論は、データベース活用による教育という論点を中心に、研究者と市民の新たなネットワーク構築に繋がったと評価されている。

「第二部：瞑想の東西」においては、渋沢田鶴子氏（公益財団法人渋沢栄一記念財団/東京マインドフルネスセンター）による基調講演「社会の安らぎ：無畏施とフィアレスネス — 日米におけるマインドフルネスの体験から」が行われ、マインドフルネスが社会にもたらす影響について深掘りされた。蓑輪顕量 U-PARL 部門長は「瞑想の目指したもの — 安らぎと活力へ繋がる世界」と題し、瞑想が個人にもたらす精神的効果と、それが社会全体に及ぼす可能性について述べた。蓑輪氏はインド哲学仏教学を専門とし、瞑想に関する研究を継続し、ムーンショット 9 に関する瞑想効果検証の科学的方策模索に取り組んでいる。高橋美保兼務教員は「個人のライフキャリアとコミュニティに生かすマインドフルネス—東洋の価値観がもたらすもの」として、東洋の視点からのマインドフルネスの活用を提案した。高橋氏は臨床心理学を専門とし、東洋文化の叡智に基づいた心理支援の検討を行っている。高橋美保兼務教員をディスカッサントに迎え、参加者との間で瞑想の東西のあり方に関する議論が深められた。このセッションは、学びの一種としての瞑想（マインドフルネス）という論点に焦点を当てた。

「第三部：自然科学をまえにした価値」においては、佐倉統氏（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）は「ロボットのお葬式：人と機械の関係の文化誌」として、人間と機械の関係性の変化とそれに伴う文化的な側面に言及した。一色大悟 U-PARL 副部門長は「日本で地球が丸くなったとき：仏教が探したヒューマンスケールの価値」と題し、科学と宗教・文化の交錯を仏教の視点から考察した。海野聡 U-PARL 副部門長は「大工の知恵と建築学 伝統知と近代知の共鳴」として、伝統的な知恵が現代科学といかに共鳴するかについて解説した。海野氏は日本建築史・東アジア建築史を専門とし、特に建築技術史を研究している。小林牧氏（東京国立博物館）による講演「デジタル活用で博物館体験は豊かにできる？」では、デジタル技術が文化体験にもたらす可能性が議論された。続いて小林牧氏をディスカッサントに、科学技術と倫理という論点を中心に、心のゆたかさと自然科学の関係性について議論が展開された。

閉会挨拶は蓑輪顕量氏によって行われ、その後アフターセッションが設けられた。

このフォーラムは、令和 6 年度のテーマである「Society5.0 における心のゆたかさ」に関する議論を集約し、デジタル化が進展した時代における精神的幸福という社会課題に対して、文理融合・東西融合のアプローチから具体的な解決策を模索する試みとして成功を収めた。

（以上、NotebookLM にて生成）

令和 7 年度東京大学総合図書館 U-PARL 展示「絵と詩 少数民族 ショルのこころ」展示・講演会報告

Akmatalieva Jakshylyk
（U-PARL 特任研究員）

はじめに

2025 年 5 月 1 日から 2025 年 6 月 15 日まで東京大学総合図書館 1 階展示スペースにて、U-PARL 主催展示「絵と詩 少数民族 ショルのこころ」を開催し、2025 年 5 月 9 日には総合図書館別館ライブラリープラザにて展示記念講演会「少数民族ショルについて語ろう」を開催した。両イベントは、U-PARL の企画・運営により開催され、展示の一環として行われた。

本企画の趣旨は、ロシア連邦南シベリアのケメロヴォ州に住む人々の言語でありテュルク諸語に属するショル語を紹介し、彼らの世界観を共有することである。ショルの人口は約一万人だが、実際の日常生活でショル語を流暢に使用しているのは千人にも満たないと言われている。

中央ユーラシア大陸の東西に 30 余りのテュルク諸言語が分布している。日本ではトルコ語やウズベク語、ウイグル語などは比較的よく知られているが、一方でショル語やアルタイ語などのようなシベリア少数民族の言語はあまり知られていない。それら少数民族の言語の一部は絶滅の危機に直面しており、いままさに消滅しようとしている。ショルの人々は、自分たちの土地で自分たちの母語を自由に話せない。ショル人作家アルバチャコワ・リュボフ氏の絵と詩を通して、そのような状況にある彼らの“こころ”の叫びを感じてもらいたかった。

展示のポスター（上）

講演会のポスター（下）

展示について

2025 年 5 月 1 日～6 月 15 日の展示期間を通じて、総計 793 名の方々にご来場いただいた。来場者は日本人のみならず外国人にも及び、年齢層も子供から高齢者までと幅広く、多様な背景を持つ方々にご関心をお寄せいただいたことは、本展示の意義を示すものである。

また、本展示は単なる消滅危機言語の紹介に留まらず、多様な来場者間や関係者間との対話・交流の場を作った点においても意義深い。異文化理解の促進や相互理解の深化に寄与し、文化多様性の尊重を社会に根付かせる一助となったことは特筆すべき点であろう。

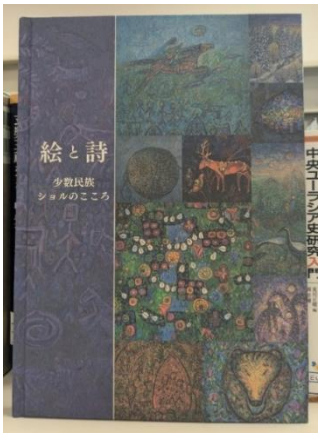
なお、本展示は、東京大学大学院人文社会系研究科の長屋尚典准教授の 2025 年度の授業「野外調査法」においても課題（教材）として活用された。学生たちは課題として、「絵と詩 少数民族 ショルのこころ」展を訪問し、消滅の危機にあるテュルク諸語について学ぶ機会を得た。課題では、展示全体に対する感想と最も興味深かったポイントを取り上げて論じることが求められており、これにより学生は実地体験を通じて消滅危機言語の状況理解を深めることができた。学生たちは展示を訪れて多くのコメントや感想を寄せてくれた。彼らの課題については、別稿にて改めて論じたい。このように、教員、学生のみならず、研究員や一般の方も参加する多様な層が関わった点は、本展示の教育的価値を一層高めるものである。

来場者の手書きのメッセージ

今回の展示開催に先立ち、会場には来場者が自由に書き込めるメッセージボードを設置した。これは、企画者と来場者が対話できる場を設けるためのものである。

2025 年 5 月 1 日・展示開幕

展示の様子



『絵と詩 少数民族 ショルのこころ』
東京大学附属図書館 U-PARL 展示図録
（アクマタリエワ編）2025 年 5 月 1 日出版

来場者用のメッセージボード♡

その結果は非常に興味深いものとなった。メッセージボードには、以下の写真に示すとおり、掲示スペース♡に収まりきらないほど多数の感想が寄せられた。このように多くの来場者が自発的に反応を示したことは、本展示に対する関心の高さを示すものであり、非常に喜ばしい成果である。本展示は消滅危機に瀕しているショル語・ショルの文化を紹介するという、日本国内では稀有な試みであり、絵と詩を通して観覧者に強い印象を与えたことがうかがえる。多くの来場者が思い思いの感想を自由に記し、その一部には言語的・感情的にきわめて豊かな内容が含まれている。ここでは、これらのメッセージを分析し、展示の社会的・教育的意義について触れておきたい。

来場者らの手書きのメッセージ（全 69 枚）

来場者の属性

メッセージの筆跡や記述内容、表現スタイルから、来場者は幅広い年齢層であったと推測される。特に多かったのは、子どもとみられる記入である。例えば、「♥♥♥」「おもしろかった」「たのしかった」など、短い語や絵文字、ハートマークを使った表現が目立った。また、「白樺の木がすてきだった」といった素直な視点から、展示が子どもにも感性を刺激するものであったことが分かる。一方で、大学関係者や研究者と思われる方々による哲学的なコメントも見られ、知的関心を引く内容であったこともうかがえる。

言語的多様性

メッセージは主に日本語で記されていたが、中国語や英語、韓国語、また断片的ながらキリル文字（ショル語やその他、テュルク系言語と思われる）による表記も見られた。多言語での書き込みは、展示が国際的にも関心を引いていたことを示す。

中国語の例：

「令人印象深刻且感動充滿自然与童趣、顔色飽滿大勝、美麗深深感動（2 名の署名）（日本語訳：非常に深い印象と感動を残す展示です。自然さと素朴さに満ち、色使いは非常に大胆で、その美しさに深く感動しました。）」

英語・日本語・韓国語の例：

以下のように英語・日本語・韓国語の混合メッセージがあり、来場者が異なる言語で自己表現していた様子がうかがえる。アルファベット、ハングルと漢字で併記していたのが印象的だった。

「ステキな展示をありがとうございました。Beautiful poetry and paintings! QR コードで音声がきけてとても良かったです。재밌게 잘 보고 갑니다.（2 人の署名）（日本語訳：面白く拝見しました）」

ショル語・キルギス語の例：

「 *Алгыш ползын! Көргөзмө абдан кызыктуу болду*（日本語訳：どうもありがとう。展示はとても面白かった）」

他にも『絵と詩　少数民族 ショルのこころ』東京大学附属図書館 U-PARL 展示図録よりショル語の「*Алгыш ползын!*（ありがとう）」という言葉を引用して書いたと思われるメッセージが数多くみられた。

これらの事例は、展示が異言語間の対話を促進する場となっていた証拠である。

どんな反応が多かったか

メッセージの多くは、ポジティブな感情表現にあふれていた。とりわけ「楽しかった」「感動した」といったシンプルな言葉が繰り返され、展示が来場者の心を動かした様子が明確に示されている。

また、知的・芸術的感動を表現した例として、「詩のことばや絵の色彩に今まで見たことのない新しい感覚を味わいました！他の作家の作品も見てみたいです！」というメッセージがあった。さらに、「信念を感じた　合掌」「シャーマニズムが、いまだに残っていて親しみがもてた」「ショルの文化が少しでも長く続いてほしいです」といった表現は、文化保存への共鳴を表している。

一方で、危機感や悲しみを含む感想も見られた。

「私は、ショル語がショルの人たちにとって大切な言葉なのに話されなくなっていくことがかなしいと思いました」

「自分のげん言（原文のママ）がきえてしまったらどうしようと考えました。その子は、なやんだでしょうか。その子はかわいそうだとおもいました。」

これらのメッセージは、言語消滅の現実に対する真摯な感情を反映している。

印象的なメッセージ

来場者のメッセージの中でも、印象深いものをいくつか紹介する。

まず、U-PARL が取り組んでいる「消滅危機言語のデジタル・アーカイブ構築の重要性と期待を感じさせるメッセージとして以下のような意見が多くみられた。ちなみに、以下のメッセージの冒頭はラテン語で「話し言葉は飛んでいくが、書かれた言葉は残る」という意味になる。

「verba volant, scripta manent.言葉がたとえ消えてしまっても、書かれてさえいれば残り続ける。アーカイビングの重要性を再認識しました。」

「映像と音声で記録して、人類の遺産として残してください！！」

「このアイデアを世界中の言語にやって歴史に遺してほしい」

「トルコ語の興味で見に来ましたがまったく独自の精神世界にひきこまれました。社会全体が大変になっているのではと思いますが、言語を残し、さらに発展させてほしいです。」

「ショルの人々の文化と言語が消えずに残っていってくれるよう祈ります。」

これらのメッセージは、企画者が取り組んでいるデジタル・アーカイブが一般来場者の意欲を引き出した好例であろう。今後ともデジタル・アーカイブを確実に実現していく力をくれたメッセージととらえ、身が引きしまる思いである。

また、以下のように来場者が図書館への期待と展示の成果物に継続的な価値を見出

しているととれるメッセージもみられた。

「絵と詩、とてもよかったので、本として出版したり、東大のサイトから見れるようになるなど、われわれがアクセスできる形のなにかになったらうれしいです。」

「すてきな絵と詩、そして何よりすばらしい日本語訳ですね。ショル語の世界にひきこまれて、しばしひたっていました。図書館として残すべきものだと思います。ぜひ第 2 弾もやってください。」

これらの他にも、作者の絵に魅力を感じた来場者も多かったので、詩と絵を一緒に展示したことが意義深かったと考えられる。以下のようなメッセージが目立った。

「絵の力に引き寄せられて立ち寄りましタ（原文のママ）。聴ける展示！で更にほっこり！より興味を抱きましタ（原文のママ）・・・初めて知った文化　ありがとうございます」

「色彩がとてもあざやかで目を引かれました。自然や民族をうたう詩のなかにも、言語や民族アイデンティティを守ろうとする信念を感じました。（ショル語で「ありがとう」を表記）」

「絵画の色合い、点描っぽい塗りがとても素敵だと思いました。今回取り上げていた詩からは民族アイデンティティを失うことの危機感があるものもあれば、自然や土地、心情を描いたものもありました。さらに多くの詩が見れたらと思います。」

全体的な傾向と今後の活用

全体として、寄せられたメッセージは、展示の成功を裏付けるものであった。子どもから大人、外国人に至るまで、多様な層の来場者がそれぞれの視点で展示に向き合い、記録として思いを残した。とりわけ、感動・学び・驚き・文化尊重といったキーワードが頻出しており、ショル文化の芸術性と精神性が来場者の内面に深く届いたことがわかる。

これらのメッセージは、単なる感想以上の価値を持っていると思う。来場者の声を、ショル語話者に届けることで、当事者の励みや共感の架け橋となると確信している。

展示に寄せられたメッセージは、まさに文化を媒介とした「対話の記録」であり、今後もこのような試みが広がっていくことを期待してやまない。

講演会について

2025 年 5 月 9 日、展示会「絵と詩 少数民族 ショルのこころ」の記念講演会「少数民族ショルについて語ろう」を東京大学総合図書館別館ライブラリープラザで開催した。

企画者（アクマタリエワ）の講演様子

今回の講演会は企画した当初から「堅苦しくなく、リラックスした雰囲気での対話」というのが大事なポイントであった。

そのために、一方的に講演して、その後、質疑応答という形ではなく、講演のあと、参加者同士が意見交換を行うという形をとった。参加者の多くが、期待以上に、積極的に話し合っている様子がうかがえた。

講演会の様子

その後、総合図書館展示スペースに移動して、講演者によるギャラリートークを行った。ここでも参加者と積極的な対話ができ、ショルに対する理解が深まった様子だった。

展示会場でのギャラリートークの様子

講演会の後に実施したアンケートには計 22 件の回答をいただいた。その結果を合わせて報告しておきたい。

講演会の参加者の感想

多くの参加者がショル語の消滅危機状況に驚きを受けており、「ショル語話者が（ショル人の）わずか 10%しかいないことに驚いた」「消滅言語による文化の消滅は人類にとり、大きな損失だ」といった声が寄せられた。

また、ショル語による詩や絵といった芸術表現にも強い関心が示され、「詩の押韻はどのぐらい厳密か」などの詩の構造に関する感想がみられた。絵と詩の表現は、文化の豊かさとアイデンティティの根幹をなすものとして、多くの参加者の心を動かしたようである。

さらに、ロシア正教とシャーマニズムが同時に存在し共存している点に対して、「異なる宗教観が共に根付いていることが興味深い」、「テュルク系の言語はイスラーム系文化との関連で見ることが多かったので、このような文化を保ち続けている文化を知れてとてもおもしろかった」という宗教への関心が寄せられた。

加えて、日本文化との比較や自身の経験と重ね合わせる視点も見受けられた。「アイヌ語や沖縄語（琉球語）を思った」「文化を残すために国の保護が必要だ」という意見もあり、日本国内における言語状況にも関心が広がっている様子がうかがえた。これにより、ショル文化への理解が、参加者自身の文化を見つめ直す契機となっていることが伝わってくる。

講演会の参加者の関心

参加者からは、ショル文化や言語に対する多角的な関心が寄せられ、様々な意見や提案をいただいた。

デジタル・アーカイビングに関しては、ショル語や文化の保存と次世代への継承の手段として、「多言語への翻訳もとりわけ大事だ」、また「気軽に学べる絵本などがあると親しめる」といった、若年層へのアプローチの重要性を指摘する意見が見られた。これらの提案は、企画者としてはしっかり受け止めたいと考えていた。

展示や活動の継続に関する希望も多く寄せられた。特に、「このような機会がもっと増えてほしい」との声や、「このような言語の展示をしたりすることがとてもいい提案だ。言葉の博物館（どちらかというと万博で

すね！）のように色々な人々に危機言語を実際に聞いて読めたらいい」という具体的な提案も見られ、関心を一過性のものにせず、継続的な学びや交流の場として発展させていくことの重要性が強調された意見もあった。

ショル文化に対する具体的な質問も寄せられた。

例えば、「シャーマンになるための資格とは？」「シャーマンは占いを行うのか？行うとすれば、どのような言葉を使うのか？」「ショルの絵画に使われている絵具の材料は？」「叙事詩は現在いくつ現存しているのか？」「ショル語における文字や正書法はどのように形成されたのか？」など、専門的かつ詳細な関心が見られた。

これらの質問は、ショル文化に対する理解をさらに深めたいという参加者の強い意欲の表れといえる。

参加者の展示鑑賞様子

今後の期待と改善点について

参加者からは、ショル語に関する理解をさらに深めるために、改善の提案や今後の取り組みに対する期待も寄せられた。

まず、映像や音声資料のさらなる充実が望まれている。特に「実際に話されているショル語の映像をもっと見たかった」との声があり、言語のリアリティを直接感じられるコンテンツへの関心が高いことがうかがえる。

次に、他言語との比較を通じた情報提供の強化も期待されている。「方言と消滅危機言語の違い」や「他地域との比較」といった観点から、ショル語の特性や課題を相対的に理解できる構成への要望が見られた。

講演会アンケートより

参加者の満足度に関して、「期待に応えられたか」という問いへの回答結果は次の通りである。全体の 16 件が「期待していた知識や経験が得られた」と回答しており、内容は一定の期待に沿うものだったといえる。「期待していた以上の知識や経験が得られた」とする回答は 1 件で、ごく一部ではあるが高い評価も見られた。

一方、「期待していたものとは異なる知識や経験が得られた」と回答したのは 5 件であり、内容に対する期待とのギャップが存在したこともわかった。

以上が、「絵と詩　少数民族 ショルのこころ」展および関連講演会に関する報告である。

最後に、企画者として、本展示および講演会を通じて、少数民族ショルの“こころ”（言語・文化・精神など）に対する理解と関心が広がるとともに、教育・研究・一般社会をつなぐ場としての展示活動の可能性が実証されたことを強調したい。本プロジェクトにご協力・ご来場くださったすべての関係者に心より感謝を申し上げるとともに、今後も同様の文化的・学術的取り組みを通じて、多様な文化資源の継承と発信に努めていく所存である。

ショル作家アルバチャコワ・リュボフ氏から届いたメッセージを添えて、原稿を締めくくりたい。

ショル語

Канче көп тем пожадып, улуғ иш слер иштеп–салды.　Алғыш ползын!

Слер меең　қастаған небелеримме пасқан кер сөстерим көргүзип, шор қалықтың чадыйын эдоқ аштын…

Ам слердиң Япония теп, черлеринде пистиң шор кижилербе меең иштерим пилчиғаннаң ужун маттап өргүнчам!

Слердиң ижиң мынаң артық уғулзын!

Чатқан чажын узақ　ползын,

чайанын мөзүк ползын!

Маға чақшы сөстер пасқан кижилерге ул уғ алгыш!

Пистиң Тағлығ Шор черлерибиске слер а алап келб–одурар!

Арбачакова Любовь

皆さんが魂を注いでくださった努力に深く感謝を申し上げます。

私が描いた絵を見せたり、詩を日本語に訳したりしただけでなく、ショル族について紹介してくださったことに感謝します。日本でショル族のことを知ってもらえて何より嬉しいです！

私は心からあなた方の更なる成功を祈っています！あなた方の人生が長く、あなた方の精神が高くありますように！展示を見て、素晴らしいメッセージを書いてくださった全ての方々、本当にありがとうございました！ 私たちの山ショルに遊びに来てください！

アルバチャコワ　リュボフ

ショル作家アルバチャコワ・リュボフ氏

※北海道立北方民族博物館へ移動展として出展する予定。詳細情報は以下の通りである。

移動展【絵と詩 少数民族 ショルのこころ】

【会期】2025 年 11 月 1 日～12 月 14 日

【会場】北方民族博物館　ロビー

【主催】北海道立北方民族博物館

【共催】東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門（U-PARL）

アジア研究図書館叢書出版報告

河﨑　豊
（RASARL 助教）

アジア研究図書館では毎年度、「アジア研究図書館叢書」と銘打ち、寄贈資料の目録などを中心に出版を行っている。これらの出版物は全て、アジア研究図書館では開架資料としてそれぞれ相応する箇所に現在は排架されている。その PDF 版はすべて、東京大学学術機関リポジトリからダウンロードすることが可能である（各叢書の URL はここでは省略する）。

令和 5 年度･6 年度では叢書第 4 巻～8 巻を刊行した。このうち第 5 巻の『アジア研究図書館所蔵柳橋博之氏旧蔵資料目録』については、本ニューズレター第 15 号において早矢仕悠太氏による詳細な紹介が掲載されているので省略し、残り 4 点の書誌情報を簡単に示す。

なお、これまで出版した各巻も含め、現物が若干残っているものもあるので、必要とする機関があれば弊館までお問い合わせいただきたい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

アジア研究図書館所蔵古田元夫氏旧蔵資料目録 / 澁谷由紀編 (アジア研究図書館叢書 ; 4). 東京 : 東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門, 2024.3.
分類：3-03 J:020:shi
ISBN：9784910718057
NCID：BD06139654

アジア研究図書館所蔵奈良毅文庫目録 / 徳原靖浩編 ; 冨澤かな解説 (アジア研究図書館叢書 ; 6). 東京 : 東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門, 2024.3.
分類：4-01 J:020:tok
ISBN：9784910718071
NCID：BD06139993

アジア研究図書館所蔵南アジア地域研究プロジェクト東京大学拠点 (TINDAS) 寄贈資料目録 / 河﨑豊編 (アジア研究図書館叢書 ; 7). 東京 : 東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門, 2025.3.
分類：4-01 J:020:kaw
ISBN：9784910718088
NCID：BD11235318

東京大学文学部考古学研究室漢籍分類目録 / 鈴木舞編 (アジア研究図書館叢書 ; 8). 東京 : 東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門 , 2025.3.
分類：2-03 J:020:suz
ISBN：9784910718095
NCID：BD11506426

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今年度も若干点の出版を予定していることを最後に記し、本報告を終える。

蔵書紹介

カッタエフ（Komilxon Kattaev）氏からの寄贈資料について

河原 弥生
（RASARL 准教授）

はじめに

2022 年 8 月に筆者がウズベキスタンのサマルカンドを訪問した際に[1]、サマルカンド州マフドゥーミ・アァザム・ダフベーディー研究基金長のカッタエフ氏から、氏の著書を中心とする 20 点の書籍を受贈し、アジア研究図書館に排架した。本稿では、研究利用の便のため、その概要を紹介する。

カッタエフ氏は、サマルカンド国立博物館東洋写本部門長、ウズベキスタン科学アカデミー・サマルカンド支部長、サマルカンド外国語大学東洋写本センター長を歴任したサマルカンド史の研究者であり、サマルカンドで活躍したイスラーム学者とその墓廟の研究を専門とする。カッタエフ氏はまた、中央アジアに発祥したスーフィー教団、ナクシュバンディー教団の 16 世紀の指導者ホージャ・アフマド・カーサーニー＝マフドゥーミ・アァザム（1542 年没）とサマルカンド北郊ダフベードにあるその墓廟の研究でも知られる。氏自身がマフドゥーミ・アァザムの子孫であり、先祖代々受け継がれ、祖父のカッタハーン・ホージャ氏（1969 年没）個人蔵であった貴重な史料を刊行し、それに基づく新知見を提供している。このテーマでの代表的な著作は『マフドゥーミ・アァザムとダフベード』（Комилхон Каттаев, *Махдуми Аъзам ва Даҳбед*, Самарқанд Суғдиёна, 1994）である（国内図書館未所蔵）。

マフドゥーミ・アァザムは、30 以上の論考を残した理論家として知られ、以後の教団指導者たちは、その理論に基づいて歴代政権に関与し、教団は政治的にも大きな影響力を行使した。しかし、ソ連時代の歴史研究の制約もあり、サマルカンドにおける教団の歴史はこれまでほとんど研究されてこなかった。サマルカンドのイスラーム学者たちの墓廟も近年活発に発掘と研究が進められているテーマである。

受贈した資料は主にマフドゥーミ・アァザムの著作、サマルカンド史に関する一次史料の紹介とその研究であり、中央アジア・イスラーム史研究に欠かせない資料群である。またすべてが国内図書館未所蔵の貴重な資料であった。

カッタエフ氏（左）と筆者（2022 年）

[1] カッタエフ氏との面会は、「ムハンマド一族をめぐる諸言説に関する研究：イスラーム史研究の革新をめざして」（JSPS 科研費 19H01317 研究代表者：森本一夫）のウズベキスタン調査の際に行われた。

カッタエフ氏寄贈資料

サマルカンド近郊ダフベードのマフドゥーミ・アァザム廟　マフドゥーミ・アァザムとその一部の子孫の墓は高台にある（筆者撮影、2022 年）

マフドゥーミ・アァザム廟併設モスク（森本一夫氏撮影、2022 年）

マフドゥーミ・アァザム廟コンプレックス中庭のミナレット（筆者撮影、2022 年）

<u>受贈資料一覧</u>

資料はウズベク語、ロシア語に分け、アジア研究図書館の分類番号順に並べた。書誌情報は、以下のように記載した。
タイトル / 責任表示 ; 巻次. -- 版表示 -- 出版地 : 出版者 , 出版年. – 請求記号

(1) Махдуми Аъзам Даҳбедий ва унинг машҳур авлодларидан мерос қолган қадимий нодир китоблар каталоги / Комилхон Каттаев ; 1 китоб. -- Тошкент : Tafakkur bo‘stoni , 2016. -- 5 XT:020:kat
『マフドゥーミ・アァザム・ダフベーディーとその著名な子孫から受け継がれた古い稀覯書の目録』　カッタエフ氏の祖父カッタハーン・ホージャの個人蔵書であった史資料をサムネイル画像付きで紹介する目録。マフドゥーミ・アァザムの『論文集 *Majmūʿah al-rasāʾil*』の著者自筆本、孫のホージャ・アブルバカーが著したマフドゥーミ・アァザムの伝記『マカーマート *Jāmiʿ al-maqāmāt*』の著者自筆本と複数の写本、マクスード・イブン・ミール・ナースィルッディーン・フサイニー著『聖なる芳香 *Rawāʾiḥ al-quds*』、マフドゥーミ・アァザムの息子ホージャ・イスハークの子孫でアフガニスタンのバーラクザイ朝君主アブドゥッラフマーン・ハーン（在位 1880-1901 年）の導師

であったジャァファル・ホージャ・ヒラーリーの詩集『愛の園 *Gulshan-i ʿishq*』、カッタハーン・ホージャ著『ダフベード派の歴史 *Risāla-i tārīkh-i Dahbīdīya*』の著者自筆本、サマルカンドの地誌・聖者廟案内として知られるミール・アブー・ターヒルホージャ著『サマリーヤ *Samarīya*』の著者自筆本や、文書類、石版本などの貴重な資料が紹介される。

(2) Махдуми Аъзамийлар шахсий кутубхонасидаги қадимий нодир қўлёзма ҳужжатлар каталоги / Комилхон Каттаев ; 2 туркум. -- Тошкент : Qaqnus Media , 2020. -- 5 XT:020:kat

『マフドゥーミ・アァザムの子孫所蔵の稀覯古文書』　（1）の続編で、16～19 世紀の文書類の目録。ワクフ文書、ファトワー、証書、スーフィズム教導の免許状などが収められており、マフドゥーミ・アァザム廟にモスクを建設したアシュタルハン朝期サマルカンド総督のヤラントゥシュ・ビー Yalangtūsh bī（1656 年没）やマンギト朝の歴代君主が発行した文書が含まれる[2]。

(3) Васиятнома / Хожа Абдухолиқ Ғиждувоний. -- Тошкент : Splendid , 2021. -- Форс тилидан таржима, кириш, тадқиқ, изоҳлар ва иловалар муаллифлари ҳамда нашрга тайёрловчилар: Абдулғафур Раззоқ Бухорий ва Комилжон Раҳимов. -- 5 XT:167 e:ghi

『遺言』　ナクシュバンディー教団の前身であるホージャガーン教団の始祖、アブドゥルハーリク・グジュドゥヴァーニー（1220 年没）による、修行の条件や作法に関するペルシア語の著作『遺言』の現存する多数の写本について、そのうち最良のイラン国立図書館所蔵 17920 写本の影印、当該写本を利用したウズベク語訳、語彙解説と索引。

(4) Тасаввуф алломалари / Комилхон Каттаев. -- Тошкент : Ғафур Ғулом номидаги нашриёт-матбаа ижодий уйи , 2017. -- 5 XT:167 e:kat

『タサッウフの学者たち』　ヤサヴィー教団の指導者サイイド・アタ、ナクシュバンディー教団の指導者、ホージャ・アフラール、マフドゥーミ・アァザム、ヤサヴィー教団のシャイフ・フダイダード・ワリーらとその子孫の歴史について。特にマフドゥーミ・アァザムの子孫に関して詳しい。

(5) Жўш Ота ва Яссавия силсиласи тарихи / Комилхон Каттаев. -- Тошкент : "Qamar-media" нашриёти , 2020. -- 5 XT:167 e:kat

『ジョシュ・アタとヤサヴィー教団の歴史』サマルカンド州コシュラバト郡ジョシュ村にあるジョシュ・アタという廟について、墓碑や系譜書に基づく研究。ジョシュ・アタは、アフマド・ヤサヴィーの弟子であるハキーム・アタの孫であり、11 世紀に活動したと考えられる人物。

(6) Мажмуа ар-расоил : рисолалар тўплами / Махдуми Аъзам Даҳбедий (Мавлоно Хожагий Косоний) ; сўзбоши ва тадқиқот муаллифи Комилхон Каттаев. -- Тошкент : [s.n.] , 2020. -- 5 XT:167 e:mak

『論文集』　マフドゥーミ・アァザムの 28 の論考が所収される『論文集』（613 葉）の影印。個人蔵で、マフドゥーミ・アァザム

[2] 本書の pdf 版がインターネット上で公開されている。最終閲覧日、2025 年 7 月 2 日。（https://e-library.sammu.uz/uploads/books/O'zbek%20tilidagi%20adabiyotlar/Диншунослик/Махдуми_Аъзамийлар_шахсий_кутубхонасидаги_кадимий_нодир_кулёзма.pdf）

自身の自筆本とされる（資料（1）参照）。

(7) Рисолаи Бобурийя : Бобурга аталган рисола / Махдуми Аъзам Даҳбедий (Мавлоно Хожагий Косоний) ; форсийдан таржима, сўз боши, изоҳ ва кўрсаткич муаллифлари Комилхон Каттаев, Маҳмуд Ҳасаний. -- Тошкент : "Наврўз" нашриёти , 2020. -- 5 XT:167 e:mak
『バーブルへの論文』　ムガル朝創始者のバーブル（1483-1530 年）の要請により、マフドゥーミ・アァザムが様々な教団でおこなわれているズィクルの問題について説く『論文集』（資料（6）参照）所収の論文。ペルシア語からウズベク語への翻訳。

(8) Шоҳизинда : Қусам ибн Аббос тарихи / Комилхон Каттаев. -- Тошкент : Ўзбекистон Республикаси Фанлар Академияси «ФАН» нашриёти , 2011. -- 5 XT:200 c:kat
『シャーヒズィンダ：クサム・イブン・アッバースの歴史』　サマルカンドの北東部にある著名なシャーヒズィンダ（生ける王）廟の歴史概説。

(9) Самарқанд мадрасалари ва илму фан ривожи / Комилхон Каттаев. -- Тошкент : "Qamar-media" нашриёти , 2020. -- 5 XT:200 c:kat
『サマルカンドのマドラサと学問の発達』サマルカンドのマドラサや教育システム、主要な学問分野、著名な教育者たちについて。最後の第三章では、現代ウズベキスタンの歴史教育に関して、教科書の間違いを多数指摘し、問題提起する。

(10) Қадимий китоблар таржимаси / Комилхон Каттаев, Гулноза Каттаева. -- Тошкент : "Qaqnus" нашриёти , 2020. -- 5 XT:200 c:kat
『古い本の翻訳』　イマーム・ナサフィーのサマルカンドの地誌『カンディーヤ』（資料（11）参照）、ヤサヴィー教団の指導者たちの伝記『聖なる芳香からの一瞥 *Lamaḥāt min nafaḥāt al-quds*』、マフドゥーミ・アァザムのズィクルに関する論考『バーブルへの論文』（資料（7）参照）および君主たちへの助言『スルターンたちへの助言』、20 世紀初頭のジャディード活動家ムナッワル・カーリー（1878-1931 年）がマートゥリーディーの教義に基づきイスラームの基本的な信念をまとめた『イマーム・マートゥリーディーの教え』の 5 点の資料のウズベク語への翻訳。

(11) Қандия / Абу Хофс Нажмиддин Умар ан-Насафий ас-Самарқандий ; тадқиқот, таржима, сўзбоши, изоҳ ва луғатлар муаллифи Комилхон Каттаев. -- 2-нашр. -- Самарқанд : Суғдиён , 2016. -- 5 XT:280:kat
『カンディーヤ』　アブー・ハフス・ナジュムッディーン・ウマル・ナサフィー・サマルカンディーが著した著名なサマルカンドの地誌のウズベク語訳。サマルカンドで活動したの学者たちの墓地について述べられる。用語解説あり[3]。

(12) Имом Марғиноний ва Чокардиза тадқиқотларидаги хатоликлар ислоҳи : илмий тадқиқот / Комилхон Каттаев. -- Тошкент : "Hilol media" nashriyoti , 2018. -- 5 XT:280:kat

[3] 本書の pdf 版がインターネット上で公開されている。最終閲覧日、2025 年 7 月 2 日。（https://e-library.sammu.uz/uploads/books/O%27zbek%20tilidagi%20adabiyotlar/Мантиқ/Қандия-%20Каттаев%20К-%202016.pdf）

『イマーム・マルギナーニーとチャーカルディーザの研究における誤りの訂正：学術研究』　ハナフィー派法学者のブルハーヌッディーン・マルギナーニー（1197 年没）らが埋葬されることで知られるサマルカンドのチャーカルディーザ墓地の正確な位置についての研究。当時の発掘調査の結果、誤って認定された場所の修正を求める[4]。

(13) Буюк ҳуқуқшунос алломалар / Комилхон Каттаев, Гулноза Каттаева ; 5 тўплам. -- Toshkent : "Qaqnus" nashriyoti , 2020. -- 5 XT:280:kat
『偉大な法学者たち』　ハディース学者イマーム・ブハーリー、マートゥリーディー、ブルハーヌッディーン・マルギナーニーなどの法学者、神学者たちの歴史とその著作について[5]。

(14) Домла Камолнинг аълия тариқатида ўрни ҳамда юртимизнинг охирги машҳур муршидлари / Комилхон Каттаев. -- Тошкент : "Qamar-media" нашриёти , 2020. -- 5 XT:280:kat
『カマール師のタリーカにおける位置および当該地方の最後の著名な指導者たち』　ナクシュバンディー教団アァリーヤ派の指導者でサマルカンド州コシュラバト郡出身のカマール師（1870 年頃-1960）の生涯と功績について。アァリーヤ派とは、ダフベードのムーサーハーン・ホージャ（1776 年没）がインドから将来したナクシュバンディー教団の改革派ムジャッディディー派の中央アジアでの名称。

(15) Юртимизнинг ўта буюк алломалари : Имом Али Суғдий ва Кумушкентдаги тариқат пирлари тарихи / Комилхон Каттаев. -- Тошкент : "Наврўз" нашриёти , 2020. -- 5 XT:280:kat
『我がくにの偉大な学者たち：イマーム・アリー・ソグディーとクムシュケントの歴史』　サマルカンドで活動した 27 人の著名な学者たちについて。ブルハーヌッディーン・マルギナーニーの師の一人、イマーム・アリー・ソグディーのサマルカンド州アクダリヤ郡クムシュケントの墓地にある墓碑について[6]。

(16) Имом Али Паздавий ва мақбараси тарихи / Комилхон Каттаев. -- Самарқанд : "Фан булоғи" нашриёти , 2022. -- 5 XT:280:kat
『イマーム・アリー・パズダヴィーとその墓の歴史』　ナサフ（現在のカルシ）近郊のパズダ村出身のハナフィー派法学者イマーム・アリー・パズダヴィーとサマルカンドのその墓について。法学者ブルハーヌッディーン・マルギナーニーはイマーム・アリー・パズダヴィーの孫弟子にあたる。

(17) Чокардизадаги Ҳанафия мазҳабининг буюк имомлари ва олимлари : тўплам / Комилхон Каттаев. -- Тошкент : "Qamar-

[4] 本書の pdf 版がインターネット上で公開されている。最終閲覧日、2025 年 7 月 2 日。(https://e-library.sammu.uz/uploads/books/O'zbek%20tilidagi%20adabiyotlar/Диншунослик/Имом%20марғиноний%20Комилхон%20Каттаев.pdf)
[5] 本書の pdf 版がインターネット上で公開されている。最終閲覧日、2025 年 7 月 2 日。(https://e-library.sammu.uz/uploads/books/O%27zbek%20tilidagi%20adabiyotlar/Диншунослик/Буюк_хуқуқшунос_алломалар_Комилжон_Каттаев%2C_Гулноза_Каттаев.pdf)
[6] 本書の pdf 版がインターネット上で公開されている。最終閲覧日、2025 年 7 月 2 日。(https://e-library.sammu.uz/uploads/books/O%27zbek%20tilidagi%20adabiyotlar/Диншунослик/Юртимизнинг_ўта_буюк_алломалари_Имом_Али_Сугдий_ва_кумушкентдаги.pdf)

media" nashriyoti , 2022. -- 5 XT:280:kat
『チャーカルディーザにおけるハナフィー法学派のイマーム、学者たち』　サマルカンド出身のイスラーム神学者アブー・マンスール・マートゥリーディー（944 年没）、ハナフィー派法学者でサマルカンドのカーディー、アブル・カースィム・サマルカンディー（953 年没）、ハナフィー派法学者のブルハーヌッディーン・マルギナーニーらが埋葬されることで知られるサマルカンドのチャーカルディーザ墓地の発掘調査において、発見されたアブル・カースィム・サマルカンディーの墓が誤ってサイイド（預言者ムハンマドの子孫）たちの墓地と結論づけられたことへの反論。

(18) Ҳазрати Руҳобод Шайх Бурҳониддин Соғаржий ва Мавлоно Иброҳим ас-Самарқандий тарихи / Комилхон Каттаев, Гулноза Каттаева. -- Самарқанд : "Фан булоғи" нашриёти , 2022. -- 5 XT:280:kat
『ルーハーバード・シャイフ・ブルハーヌッディーン・サーガルジーとマウラーナー・イブラーヒーム・サマルカンディーの歴史』中央アジアのみならず、インドネシアなどの東南アジア地域におけるスーフィズムの普及に貢献したシャイフ・ブルハーヌッディーン・サーガルジーとその子孫の生涯と業績について。

(19) Исследование Чокардизы : новые подходы к изучении истории Мотуриди, Маргинани, Абул Касыма Самарканди, усыпальницы сейидов / Комилхон Каттаев. -- Ташкент : Изд-ва "Hilol media" , 2018. -- 5 WR:280:kat
『チャーカルディーザの研究：マートゥリーディー、マルギナーニー、アブル・カースィム・サマルカンディー、サイイド墓地への新たなアプローチ』　資料（17）のもととなった書籍。アブー・マンスール・マートゥリーディー、ハナフィー派法学者のアブル・カースィム・サマルカンディー、ブルハーヌッディーン・マルギナーニーらが埋葬されるチャーカルディーザ墓地の発掘調査において、誤った結論が出されたことへの反論[7]。

(20) Проблемы духовности и развитие гуманистических идей в свете известных и неизвестных источников суфизма, произведений исламских мыслителей и современная их интерпретация в светской литературе / Фируза Солиева, Комилхон Каттаев. -- Самарканд : Изд-во "Зарафшан" , 2022. -- 5 WR:900:sol
『スーフィズムの既知および未知の資料、イスラーム思想家の著作における精神性の問題と人文主義的思想の発展、および世俗文学におけるそれらの現代的解釈』
学界に未知の史料、マクスード・イブン・ミール・ナースィルッディーン・フサイニー・ダフベーディー・ナクシュバンディー・ブハーリー著『聖なる芳香』（資料（1）参照）に関する研究。当該史料は 1852 年までの出来事を記述しており、著者のブハラ、ロシア、トルコ滞在中の見聞や、300 人以上の歴代のスーフィーの説明を含む。史料は、カッタエフ氏所蔵。

[7] 本書のもととなった 2009 年の記事がインターネット上で公開されている。最終閲覧日、2025 年 7 月 2 日。（http://mavorounnaxr.blogspot.com/2009/10/blog-post_06.html）
本書の pdf 版もインターネット上で公開されている。最終閲覧日、2025 年 7 月 2 日。（https://e-library.sammu.uz/uploads/books/Rus%20tilidagi%20adabiyotlar/Этика%2C%20эстетика/Исследование%20чокардизы-%20Каттаев%20К-%202018.pdf）

アジア研究図書館利用案内

https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/user-guide

場　所	総合図書館4階
開館日／閉館日	総合図書館の開館日・閉館日に準じます。
開館日	以下閉館日を除くすべての日
閉館日	年末年始（12月28日～1月3日）
	定例休館日（おおむね毎月第4木曜日）
	夏季の一斉休業日（2日間）
	試験等大学行事のための閉館日
	その他臨時閉館日

開館時間

曜日等	通常期	8月・3月
月～金曜日	9:00～22:30	9:00～21:00
土・日・祝日	9:00～19:00	9:00～17:00

学外の方もご利用いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/outside/gakugai

次号の予定

第21号は令和7年10月6日に発行予定です．

ニューズレターへの情報提供、投稿や、記事へのご要望があれば、東京大学アジア研究図書館(asialib[at]lib.u-tokyo.ac.jp)までお知らせ下さい．

編集後記

第20号をお届けします．

DHARMAMITRAをご存じでしょうか．これはAI技術を駆使して開発された機械翻訳システムで，漢文・サンスクリット・パーリ・チベット語から英語などへの機械翻訳を可能にしたものです．つい最近，これに強力なOCRが搭載されました．試しに手持ちの，デーヴァナーガリー文字のみを含むサンスクリット文書のPDFを読ませたところ，ほぼ過たず結果を吐き出しました．感動的な便利さです（＊チベット文字なども可；jpeg等画像データでもOK）．研究環境が劇変する時代に生きていることを実感しながら，このような技術を図書館での日々の業務にどう生かしていくかを考える毎日でもあります．（J）